

感染症発生動向調査委員会報告 4月

《今月のトピックス》

- 細菌性赤痢やデング熱など、海外での感染症に注意しましょう。

全数把握の対象

【4月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
デング熱	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	13件
レジオネラ症	5件	梅毒	3件
アメーバ赤痢	5件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
急性脳炎	1件	風しん	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(フィリピン(セブ島))での感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 3件(O157VT1VT2 1件、O157VT2 1件、O157VT不明1件)の報告がありましたが、感染原因が明らかになったものはありませんでした。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにするのが大切です。
- 3 **デング熱**: 海外感染例が3件(シンガポール、ブラジル(サンパウロ)およびインドネシア(バリ島)での感染)報告されました。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型5件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等は不明です。各症例について引き続き感染経路等調査中です。レジオネラ肺炎は市中肺炎の約5%を占めると言われており、注意が必要です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症5件の報告がありました。そのうち3件では国内での経口感染が推定されており、1件はタイまたは中国での異性間性的接触による感染、残る1件は感染経路感染地域等不明でした。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 1件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 7 **急性脳炎**: 1件の幼児の報告がありました。インフルエンザA型による感染が推定されています。
- 8 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 1件の古典型CJDの報告がありました。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 2件の報告があり、1件は60歳代で血清型はA群、もう1件は60歳代で血清型はG群でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 無症状病原体保有者3件、その他2件の報告がありました。そのうち2件は国内での同性間性的接触、1件は日本またはペルーでの異性間性的接触、もう1件は日本またはアメリカでの異性間性的接触、残る1件は感染経路感染地域等不明でした。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 13件(70歳代以上6件、60歳代2件、50歳代2件、40歳代2件、10歳代1件)の報告がありました。そのうち予防接種を1回接種しているのが確認できたのは70歳代以上の2件のみで、他は予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 **梅毒**: 早期顕症梅毒Ⅱ期が1件(性的接触による感染)、早期顕症梅毒Ⅰ期が1件(性的接触による感染)、無症候期が1件(異性間性的接触による感染)の報告がありました。すべて国内での感染が推定されています。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「[梅毒に関するQ&A](#)」をホームページに掲載しています。横浜市内でも近年男女とも増加傾向にあり、男性では同性間性的接触、異性間性的接触ともに増加傾向にあります。

13 播種性クリプトコックス症:40歳代男性の報告が1件ありました。

HIVの感染が確認されています。平成26年9月19日から本疾患が届出対象疾患になっています。

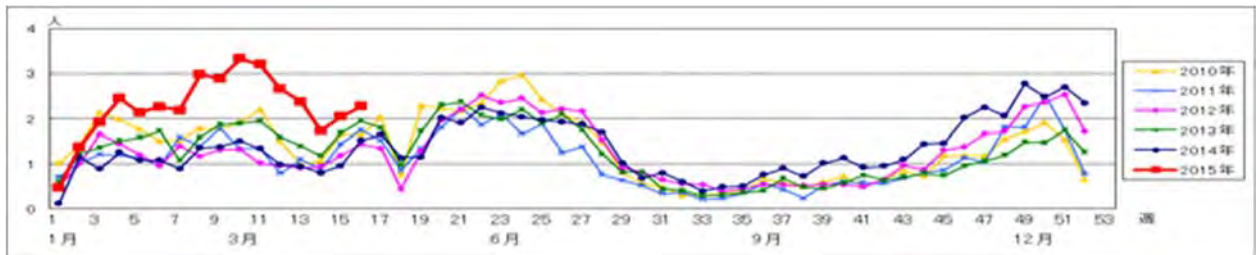
14 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:1件の報告がありました。院内感染等はありませんでした。

15 風しん:20歳代女性の報告が1件(検査診断例)ありました。フィリピンでの感染が推定されています。ワクチン接種歴はありませんでした。

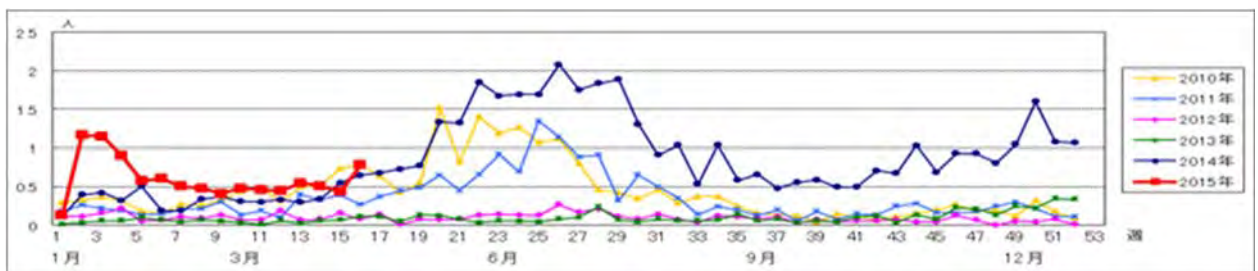
平成27年 週一月日対応表	
第13週	3月23日～3月29日
第14週	3月30日～4月 5日
第15週	4月 6日～4月12日
第16週	4月13日～4月19日

定点把握の対象

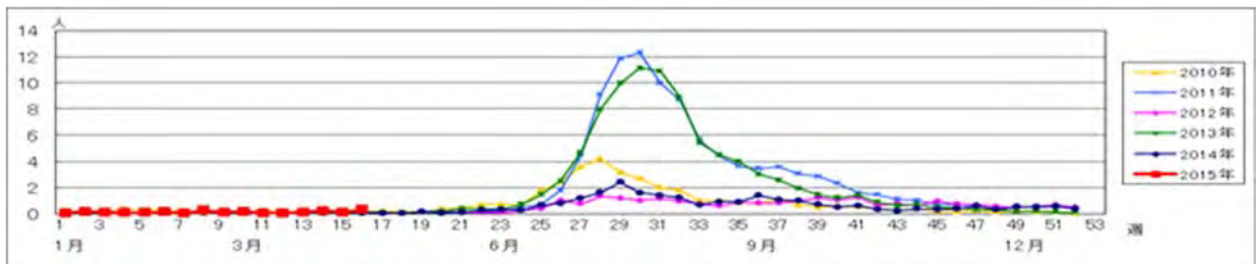
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第16週は市全体で定点あたり2.27と、例年の同時期と比べて報告の多い状況が続いています。



2 伝染性紅斑:第16週は市全体で定点あたり0.78と、やや増加しました。例年より報告が多い状態で推移しており、今後流行期を迎え注意が必要です。



3 手足口病:第16週は市全体で定点あたり0.29と落ち着いています。島根県(5.22)、佐賀県(2.74)などで報告が増加しており、今後の注意が必要です。



4 性感染症:3月は、性器クラミジア感染症は男性が18件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が1件でした。

5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第13週0.25、第14週0.50、第15週0.00、第16週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第13週1.00、第14週1.00、第15週0.00、第16週0.00となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報:3月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、基幹定点2件、眼科定点3件で、定点外医療機関からは3件でした。

5月11日現在、表に示した各種ウイルスの分離株11例と遺伝子20例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(4月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	感 染 性 胃 腸 炎
アデノ 1型	1			
アデノ 3型	2			
アデノ 4型	1			
アデノ NT	1			
インフルエンザ AH3型	1		2 1	
インフルエンザ B型			3	
パラインフルエンザ 1型			1	
ヒト ボガ	1	1		
RS		1		
ヒト メタニューモ		3		
ヒト コロナ	2	3		
ライノ	2	2		
ヒト ヘルペス 1型	1			
ロタ				2
合計	6 6	10	5 2	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

4月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から6件、その他が6件で、赤痢菌(*S.sonnei* I相)が1件、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O157:H7,VT1&2)が2件、サルモネラ(*S.Chester*)が1件検出されました。赤痢菌はフィリピンへの渡航者から検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科定点から2件、基幹定点から3件、その他が41件でした。G群溶血性レンサ球菌1件は劇症型レンサ球菌感染症の患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群、インフルエンザ菌は型別不能でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(4月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	4月			2015年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌			1			1
腸管出血性大腸菌			2			5
チフス菌						1
パラチフスA菌						4
サルモネラ			1		33	1
コレラ菌						1
不検出	0	6	2	0	13	2

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	4月			2015年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1				3		4
T4				3		
T12	1			1		
T28				2		3
型別不能	1			5		1
G群溶血性レンサ球菌			1			4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1	7		7	22
バンコマイシン耐性腸球菌					1	1
<i>Legionella pneumophila</i>			1			2
インフルエンザ菌			1			1
肺炎球菌			13		1	39
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌			15			132
百日咳		1			1	1
その他			1		7	9
不検出	0	1	2	0	1	19

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】